

もくせいかい 木盛會

ふるさと探検隊

木盛會は、島根県木材協会大田支部に所属する9社からなる集まり。市内の全小中学校(29校)へ、自分たちで作った木製のベンチを寄贈するなど、木材の良さを伝える活動を展開中。久手町にある材木市場で、材木屋の若衆に話をうかがいました。

～森山探検隊のレポート～



「この市場には、どんな種類の木があるんですか？マツが有名と聞きましたが？」

ほとんどが、スギ、マツ、ヒノキといった針葉樹です。クリ、ケヤキ、ナラなどの広葉樹がわずかに混じります。

マツは主に2種類。出雲平野の築地松や三瓶の定め松は「クロマツ」。建築材として使われるのは主に「アカマツ」です。

曲げ強度が高いので梁などの横向きの構造材として昔から使われています。私達は愛着と自信を込めて「地松」と呼んでいます。

この地域のマツは評価が高

く、一般住宅から有名な社寺まで、全国各地の建築現場に出荷しています。

「ということは、大田市出身の方が、故郷の木材で家を建てるということも？」

もちろんできます。現地の工務店に依頼し、私達が用意した木材で家を建てられるお客様は、結構おられます。ぜひ、使っていただきたいです。

「でも、一般的には、「木の家は、値が高い！」というイメージがありますよね？」

そうですね。でも実際は、建築費に占める木材費の割合は1割程と少ないんです。銘木と呼ばれるものでなければ、

決して高くありません。国産材を外国産に変えても、差額はわずかなんです。

「地元の材料と伝統の技の家づくりをめざす『石州素舞流』という団体があるようですね。」

私達製材業者をはじめ、工務店、設計事務所、森林組合などが一緒になり、「地場産材を活用した家づくりをしよう」という団体です。

大田市内でも、大手ハウスメーカーによる施工が多くなってきました。営業努力はもちろんです。地元業者ならではの価値を高め、PRしていきます。春・秋の彼岸市では、木工品等を備けなしで販売しています。子どもの椅子づくり体験は、いつも大人気ですね。

今夏には、三瓶で一泊しての、親子体験活動を計画中。森林の働きや木材利用の意義を知ってもらおうと考えています。

最後に一言どうぞ

地球温暖化防止や水源保全の観点から、木材利用が見直されています。私達も今まで以上に考え行動していきますので、みなさんには、まず、木や木製品にふれ、その良さ

を感じて欲しいです。そして、ひと家族でも多く、地場産材を使って素敵な家づくりをしていただきたいと思います。

ちょんぼし語録

第4号の配布にあわせて行ったアンケートの中で、これぞ大田弁！と思う方言を伺ったところ、多くの声が寄せられました。中でもたくさんの方がこの言葉を書いてくださいました。

しごんならず

手に負えないほどのやんちゃ子をこのように呼びます。大田市内でも地域によって「しごんぼ」「しごんらん」など微妙に言い回しが異なります。

【例】「なんと、あすこのあんじよはしごんらんぞ。わしがいの犬をしばきまくってやれない」

「なんとことだかいの。よーもよもだろぞ」

【訳】「あの家の子どもは手に負えないよ。我が家の犬をたきまくるから途方に暮れているよ」

「なんとということでしょう、救いようがないねえ」

これからもどんどん紹介していきます！



写真上左:山形弘司さん(42)福波物産(温泉津町)行動力抜群、木盛会のリーダー的存在。/上中:竹下哲史さん(31)竹下木材(鳥井町)新進気鋭の若手、石州素舞流の広報部長。/上右:石橋雄介さん(27)仁摩林業(静間町)木材のストック量には自信を持つ同社を現場で引っ張る。/下左:木原大輔さん(31)木原建築工房(仁摩町)製材から社寺建築まで手がける。/下右:松井修吾さん(24)石東林業商会(久手町)先代亡き後、1丁通の姉律子さんと同社を切り盛りする若社長。